

## シラバス詳細

IPE科目															
授業科目名															
カリキュラム2019															
I PW演習 Interprofessional Work : Seminar															
No.	時間割番号			開講時期			曜日・時限								
1	200300401			前期			月曜3限								
2	200300402			前期			月曜3限								
ナンバリング															
B_IPE3200															
配当年次 および 必須 (○)・選択 (○) の別															
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職		
	専攻	編入				専攻	編入		専攻	編入				専攻	専攻
1	3○	3○	3○	3○		3○	3○	3○	3○		3○	3○			
2	3○	3○	3○	3○		3○	3○	3○	3○		3○	3○			
履修における注意点・履修条件等															
<p>多学科による混成チームとして、模擬IPWとしてZoomにより取組みます。授業は、【前半】(4/11～6/6)と、【後半】(6/13～8/1)に分かれます。学籍番号が“偶数”の場合は【前半】、学籍番号が“奇数”の場合は【後半】になります。前半は「IPW演習①」、後半は「IPW演習②」にて履修登録して下さい。なお、実習等の理由により学科教員と相談し、前半・後半を変更している場合もあります。</p>															
科目責任者	鳶末 憲子			単位数・時間数	1単位 15時間			授業形態	演習						
科目担当者	吉永亜子、辻玲子、石崎順子、高橋恵子、高柳雅朗、菊本東陽、上原栄一郎、鳶末憲子、保科寧子、岡田茂治、田村佳士枝														
科目に関連する実務経験	○		各々専門領域における臨床現場での実践経験を有している。												
授業の概要															
<p>多学科混成チームでZoomにより取り組むIPW演習は、保健医療福祉、教育の多職種による模擬課題や事例を素材として、利用者を尊重した問題解決のプロセスを通じ、多職種理解や多職種連携で重要な葛藤（違和感や困難さなどでも可）や合意形成など、IPWに求められる能力を体験的に修得する科目です。</p>															
学習のねらい															
<p>本科目は、一連のIPE科目（ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習、IPW論）での学び、すなわち保健医療福祉、教育におけるIPWを支える価値観や態度、スキルなどを統合させ、問題解決のプロセスと同時にチーム形成の深化を体験することを目標とします。毎回のチームと個人によるリフレクションを活用し、IPWでの学びを意図的な試みとして、4年次のIPW実習へと発展させます。</p>															
関連するディプロマポリシー															
対象者の理解・倫理観	○			客観的・批判的思考	○			多面的・専門的	○		連携・統合	○		国際的・地域	○
授業の到達目標及び授業概要															
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員			講演者				
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者を尊重したチームで目指すべき目標を共有できる。</li> </ul> <p>【担当教員】 (看護) 青森広美 石崎順子  (理学) 菊本東陽 (作業) 上原栄一郎 (健康) 吉永亜子・岡田茂治 (社福) 鳶末憲子 (共通) 高柳雅朗</p>			<p>第1回(4/11 6/13) ガイダンス(未定の部分もあるため、要メール確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標や授業概要については、オンデマンドで確認できるようにする</li> <li>オンライン環境の確認</li> <li>チーム内での自己紹介、オンラインに入れない場合の対応等を確認</li> <li>コロナ禍をテーマとして、チームで検討することを想定し考える(次回まで)</li> </ul>				鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村			<input type="checkbox"/>				
2～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でのIPWも、利用者ニーズを中心にすると共に、連携から協働、さらに統合された支援やサービスの違いを認識したディスカッションを実施できる。</li> <li>求められている各学科で養成する専門職性などの相互理解を深める。</li> <li>葛藤を経て合意形成に至るプロセスから、IPWに求められる能力を理解できる。</li> <li>チームの状況に応じた多様なリフレクションのあり方を理解した上で、4段階での実施を目指す。</li> </ul>			<p>小講義室にてグループワーク</p> 第2回：4/18 6/20 第3回：4/25 6/27 第4回：5/9 7/4 第5回：5/16 7/11 <p>コロナ禍で検討したいテーマを共有することから始め、利用者のニーズを尊重した問題解決のプロセスを体験する。</p> <p>その過程にて生じた葛藤（違和感や困難さなどでも可）に対しては、共感的コミュニケーションや利用者ニーズを尊重した前向きなディスカッションにより、相互理解を深めつつ、相互支援しながら合意形成を図</p>				鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村			<input type="checkbox"/>				

		ること、効果的な4段階でのリフレクションなど、IPWに必要な能力を修得する。  なお、Zoomによるディスカッションやワークにはリスクを伴うため、毎回、次回は何をするのかなどを確認しておく。		
6	・チーム活動の体験を通じて、コロナ禍での支援のポイントや葛藤・合意形成について共有し、その多様性を理解する。	第6回（5/23 7/18） 報告会とフィードバック	鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村	<input type="checkbox"/>
7	・チーム活動の体験や報告会をリフレクションすることにより、本科目の目標について理解を深める	第7回（5/30 7/25） フィードバックを受けてのまとめ・複数のリフレクション方法（4段階は必ず）を実施し、理解を深める ※欠席すると、グループ全員のリフレクションに影響がでるため、欠席者にはグループへの対応と共に、課題を求める。	鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村	<input type="checkbox"/>
8	・チーム活動の体験を通じて、学びの統合化や今後の自己における学習課題を明確にする。	第8回（6/6 8/1） レポートへの質問	鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村	<input type="checkbox"/>

#### 授業計画に関する特記事項

※全回Zoomにて実施する。ガイダンス（第1回）はオンデマンドで事前確認する部分もあるため、メールを確認しておくこと。Webclassは共通全体（①②）と教員別に設定する。オンデマンドでのガイダンス内容確認と初回の集合は、全体共通のWebclass①②より入る。留意事項等を確認後、教員別のクラスに入る。  
※第2回以降は教員別のWebclassよりアクセスする。10分前には、Zoomへのアクセスを確認しておくこと。なお、30分以上の遅刻は欠席（3回にて成績評価の対象外となる）となるので、留意すること。各教員により出席登録の方法など、詳細は異なるため確認すること。

#### 教科書

教科書：「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」中央法規

#### 参考書、教材等

※以下は、IPW論の参考図書です。  
マイケル・A・ウェスト著・下山晴彦監訳（2014）「チームワークの心理学」東京大学出版会  
エイミー・C・エドモンドソン著・野津智子訳（2014）「チームが機能するとはどういうことか」英治出版  
野中猛ほか著（2007）「ケア会議の技術」中央法規出版

#### 評価方法

グループ活動の状況や毎回のリフレクション、個人のレポートを総合的に評価します。なお、Webclassでは、毎回のリフレクションによる変化を把握しにくいいため、個人で提出するレポートに毎回のリフレクションを貼り付けるようにする。※各自でリフレクションのデータを保存しておいてほしい。

#### 授業外における学習方法

新型コロナウイルス感染症に関する諸外国の状況、専門雑誌や各職能団体の活動の他、自治体等の取り組み等について、日頃より留意するとともに、参考になるデータを保存する等しておくとういでしょう。

#### 学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

地域（現場）にて取り組む4年次のIPW実習は、多分にIPW演習での体験に影響されると考えられます。現在、いかなる領域に就職しようとも、多領域での連携・協働が求められています。

全学科の学生が、学習目標を達成できるよう、自らやチームに起こる変化に着目し、4年次のIPW実習に向け、チームでのやりがいを実感できるようなことを期待しています。なお、4年次のIPW実習では、IPW演習以外の教員が多く担当するため、各自が率先して4段階でのリフレクションを実施できるよう、専門科目やサークル活動等のリフレクションでも活用することを推奨します。

#### 授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/04/04 13:48

印刷

閉じる

## シラバス詳細

IPE科目																	
授業科目名																	
カリキュラム2019																	
I PW演習 Interprofessional Work : Seminar																	
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限									
1	200300401			前期				月曜3限									
2	200300402			前期				月曜3限									
ナンバリング																	
B_IPE3200																	
配当年次 および 必須 (○)・選択 (○) の別																	
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職				
		編入				専攻	編入		専攻	編入				専攻	専攻		
1	3○	3○	3○	3○		3○	3○	3○	3○		3○	3○					
2	3○	3○	3○	3○		3○	3○	3○	3○		3○	3○					
履修における注意点・履修条件等																	
<p>多学科による混成チームとして、模擬IPWとしてZoomにより取組みます。授業は、【前半】(4/11～6/6)と、【後半】(6/13～8/1)に分かれます。学籍番号が“偶数”の場合は【前半】、学籍番号が“奇数”の場合は【後半】になります。前半は「IPW演習①」、後半は「IPW演習②」にて履修登録して下さい。なお、実習等の理由により学科教員と相談し、前半・後半を変更している場合もあります。</p>																	
科目責任者	鳶末 憲子			単位数・時間数	1単位 15時間			授業形態	演習								
科目担当者	吉永亜子、辻玲子、石崎順子、高橋恵子、高柳雅朗、菊本東陽、上原栄一郎、鳶末憲子、保科寧子、岡田茂治、田村佳士枝																
科目に関連する実務経験	○		各々専門領域における臨床現場での実践経験を有している。														
授業の概要																	
<p>多学科混成チームでZoomにより取り組むIPW演習は、保健医療福祉、教育の多職種による模擬課題や事例を素材として、利用者を尊重した問題解決のプロセスを通じ、多職種理解や多職種連携で重要な葛藤（違和感や困難さなどでも可）や合意形成など、IPWに求められる能力を体験的に修得する科目です。</p>																	
学習のねらい																	
<p>本科目は、一連のIPE科目（ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習、IPW論）での学び、すなわち保健医療福祉、教育におけるIPWを支える価値観や態度、スキルなどを統合させ、問題解決のプロセスと同時にチーム形成の深化を体験することを目標とします。毎回のチームと個人によるリフレクションを活用し、IPWでの学びを意図的な試みとして、4年次のIPW実習へと発展させます。</p>																	
関連するディプロマポリシー																	
対象者の理解・倫理観	○			客観的・批判的思考	○			多面的・専門的	○			連携・統合	○		国際的・地域	○	
授業の到達目標及び授業概要																	
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員			講演者						
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者を尊重したチームで目指すべき目標を共有できる。</li> </ul> <p>【担当教員】 (看護) 青森広美 石崎順子  (理学) 菊本東陽 (作業) 上原栄一郎 (健康) 吉永亜子・岡田茂治 (社福) 鳶末憲子 (共通) 高柳雅朗</p>			<p>第1回(4/11 6/13) ガイダンス(未定の部分もあるため、要メール確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標や授業概要については、オンデマンドで確認できるようにする</li> <li>オンライン環境の確認</li> <li>チーム内での自己紹介、オンラインに入れない場合の対応等を確認</li> <li>コロナ禍をテーマとして、チームで検討することを想定し考える(次回まで)</li> </ul>				鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村			<input type="checkbox"/>						
2～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でのIPWも、利用者ニーズを中心にすると共に、連携から協働、さらに統合された支援やサービスの違いを認識したディスカッションを実施できる。</li> <li>求められている各学科で養成する専門職性などの相互理解を深める。</li> <li>葛藤を経て合意形成に至るプロセスから、IPWに求められる能力を理解できる。</li> <li>チームの状況に応じた多様なリフレクションのあり方を理解した上で、4段階での実施を目指す。</li> </ul>			<p>小講義室にてグループワーク</p> 第2回：4/18 6/20 第3回：4/25 6/27 第4回：5/9 7/4 第5回：5/16 7/11 <p>コロナ禍で検討したいテーマを共有することから始め、利用者のニーズを尊重した問題解決のプロセスを体験する。</p> <p>その過程にて生じた葛藤（違和感や困難さなどでも可）に対しては、共感的コミュニケーションや利用者ニーズを尊重した前向きなディスカッションにより、相互理解を深めつつ、相互支援しながら合意形成を図</p>				鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村			<input type="checkbox"/>						

		ること、効果的な4段階でのリフレクションなど、IPWに必要な能力を修得する。  なお、Zoomによるディスカッションやワークにはリスクを伴うため、毎回、次回は何をするのかなどを確認しておく。		
6	・チーム活動の体験を通じて、コロナ禍での支援のポイントや葛藤・合意形成について共有し、その多様性を理解する。	第6回（5/23 7/18） 報告会とフィードバック	鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村	<input type="checkbox"/>
7	・チーム活動の体験や報告会をリフレクションすることにより、本科目の目標について理解を深める	第7回（5/30 7/25） フィードバックを受けてのまとめ・複数のリフレクション方法（4段階は必ず）を実施し、理解を深める ※欠席すると、グループ全員のリフレクションに影響がでるため、欠席者にはグループへの対応と共に、課題を求める。	鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村	<input type="checkbox"/>
8	・チーム活動の体験を通じて、学びの統合化や今後の自己における学習課題を明確にする。	第8回（6/6 8/1） レポートへの質問	鳶末、吉永、辻、石崎、高橋、高柳、菊本、上原、保科、岡田、田村	<input type="checkbox"/>

#### 授業計画に関する特記事項

※全回Zoomにて実施する。ガイダンス（第1回）はオンデマンドで事前確認する部分もあるため、メールを確認しておくこと。Webclassは共通全体（①②）と教員別に設定する。オンデマンドでのガイダンス内容確認と初回の集合は、全体共通のWebclass①②より入る。留意事項等を確認後、教員別のクラスに入る。  
※第2回以降は教員別のWebclassよりアクセスする。10分前には、Zoomへのアクセスを確認しておくこと。なお、30分以上の遅刻は欠席（3回にて成績評価の対象外となる）となるので、留意すること。各教員により出席登録の方法など、詳細は異なるため確認すること。

#### 教科書

教科書：「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」中央法規

#### 参考書、教材等

※以下は、IPW論の参考図書です。  
マイケル・A・ウェスト著・下山晴彦監訳（2014）「チームワークの心理学」東京大学出版会  
エイミー・C・エドモンドソン著・野津智子訳（2014）「チームが機能するとはどういうことか」英治出版  
野中猛ほか著（2007）「ケア会議の技術」中央法規出版

#### 評価方法

グループ活動の状況や毎回のリフレクション、個人のレポートを総合的に評価します。なお、Webclassでは、毎回のリフレクションによる変化を把握しにくいいため、個人で提出するレポートに毎回のリフレクションを貼り付けるようにする。※各自でリフレクションのデータを保存しておいてほしい。

#### 授業外における学習方法

新型コロナウイルス感染症に関する諸外国の状況、専門雑誌や各職能団体の活動の他、自治体等の取り組み等について、日頃より留意するとともに、参考になるデータを保存する等しておくとういでしょう。

#### 学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

地域（現場）にて取り組む4年次のIPW実習は、多分にIPW演習での体験に影響されると考えられます。現在、いかなる領域に就職しようとも、多領域での連携・協働が求められています。  
全学科の学生が、学習目標を達成できるよう、自らやチームに起こる変化に着目し、4年次のIPW実習に向け、チームでのやりがいを実感できるようなことを期待しています。なお、4年次のIPW実習では、IPW演習以外の教員が多く担当するため、各自が率先して4段階でのリフレクションを実施できるよう、専門科目やサークル活動等のリフレクションでも活用することを推奨します。

#### 授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/04/04 13:48

印刷

閉じる